

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 17章 20-37節＞

世の終わり、つまり終末についてイエス様が語られたことは何か？

1 世の終わりについて、人々が問うたこと — いつ？ どのように？

今日の箇所を読むと、その大部分が世の終わりに関する内容です。しかし間違っははいけません、それは人間が関心のあることであり、それに対してイエス様がどう答えられたかが大事なのです。先に答えを言いますと、人々は「いつ、どのように」を問い、イエス様は「それはあなたがたの知るところではない」と答えられたのです（参照：使徒言行録 1章 6～7節）。

2 (20-21) 「神の国」の「国：バシレイア」は「支配」が原意。

日本語訳聖書では元の意味が分かりにくくなっている大事な言葉があることは時々説明する通りです（「罪：ハマルティア」＝ 矢を射るが的を外している、「悔い改め：メタノイア」＝ 心の向きを方向転換する）。ここに出て来る「神の国」もその一つです。「国」と訳されている原語はバシレイアというギリシア語で、原意は「支配、統治」といった意味ですから、「神の国」は「神の支配（統治）」とも訳せまです。ですからイエス様が、「実に、神の国はあなた方の間にあるのだ」（21）と言われたのは、「神様のことが分かれば、今この時から『神様の支配』を覚えて平安に生きていけるのだよ」と言われたのです。

3 イエス様の十字架の出来事から終末を考えよ、と教えるのが聖書！

世の終わりは確かに考え出すと興味深いことかもしれません。しかし、ここでイエス様が言われたいことは、それを追及しても人間には分からないということ（22-24）、それでいて、通常は無関心に自分のためだけに生きているのではないかということ（26-36）です。しかし、そんな話の中でただ一節、25 節で、イエス様にこれから起こる苦難について触れられています。神様が送って下さった御子イエス・キリスト。この方がどうしようもなく罪深い私たち人間の罪を負って死んで下さり、その方を復活させて下さった神様。この出来事に私たちの罪を赦して下さる神様の愛を見、その神様を見上げて、その神様を覚えながら生きていく時に、最後のことは全てこの神様にお委ねして、自分のことだけでなく他の人を愛し、神様の喜ばれることを少しでもできるように生きて行けばいいのだと思えるようになるのです（参照：ルカによる福音書 12章 29～34節。特に 32節）。